

北の大地に響くハーモニー

札幌交響楽団

いつも私たちに素晴らしい演奏を聴かせてくれる、札幌交響楽団を紹介します。

昭和三十六年七月九日、札幌市民交響楽団の結団式が行われ、ここに群馬、京都に続く、日本で三番目の地方オーケストラが誕生しました。正団員十七人、アマチュアの準団員を含めた六十人余りでの船出。「札幌にプロオーケストラを」という市民の夢が、多くの人の努力を経て現実のものとなった瞬間でした。

第一回定期演奏会は、九月六日に行われました。阿部謙夫^{あべしずお}初代理事長は満員の客席の前に「札幌に新しい宝が生まれました。どうぞ皆さまの手で育ててください」とあいさつ。楽団は素晴らしい演奏で札幌誕生を強くアピールしました。

翌年三月には財団法人となり、「札幌交響楽団」に改称、正団員も増えていきます。

当時の練習場所は、中島公園内にある中島児童会

館でした。コンクリートが打ちっ放しの床は、冬になると非常に寒く、二時間も練習すると、ひざをさすって温めてからではないと、立ち上がることができないほどでした。しかし、休憩時間には菖蒲池^{あしは}で、夏はボート、冬はスケートを楽しみ、家族的な雰囲気だったといえます。

この団員同士の結束の固さに加えて、歴代の指揮者による指導が、札幌の演奏をさらにレベルの高いものにしました。そして「さわやかな音色」との高い評価が定着。国内外の多くの指揮者に愛されるまじになりました。

現在の札幌交響楽団は、正団員約七十人、年間約百二十回の演奏会を行っています。これからも、この北の大地に新鮮な音色を響かせてくれることでしょう。

(平成十年七月号・第四十七回)



昭和54年に行われた野外コンサートの様子
(札幌市写真ライブラリー所蔵)